

I 医療AIの有効活用に向けた動向

6. 医療AIの普及に向けた 共通基盤の研究開発

八田 泰秀 医療AIプラットフォーム技術研究組合理事長/BIPROGY (株) 常務執行役員

近年、医療の高度化・細分化が進んでいる一方、医療関係者は日々進化する知識や技術の習得に、従前以上の時間を割く必要があると言える。

臨床現場では、電子カルテへの入力作業や看護記録の作成などに多くの時間を費やし、診療や看護現場で患者と向き合う時間を確保することが困難になってきており、心と心が通い合う医療が置き去りにされていると聞くこともある。その背景には、医療現場における医療関係者の過度な負担に加え、高齢化社会に伴う人材不足の波が押し寄せるなど、喫緊の状

況があることは明白である。

最近では、医療分野においてもテクノロジー活用が活発になり、特に医療分野の人工知能 (AI) 技術 (以下、医療AI) の活用事例を目にするものの、単独の医療AIだけでは特定の課題 (点) に対応するにとどまり、医療現場に起きている社会的な課題 (面) の解決に至ることは困難である。さまざまな医療AIが社会に広く普及、深く浸透、さらには、新たな医療AIが創出され、発展していくためには、医療にかかわる個々の企業だけでは対応し得ない業界共通の課題が残されている。

医療AIプラットフォーム 技術研究組合の設立と 活動概要

医療従事者の負荷軽減と高度な医療の実現に向け研究・開発を行うべく、2018年に、内閣府において戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第2期「AI (人工知能) ホスピタルによる高度診断・治療システム」(以下、AIホスピタル) が開始され (図1)、複数の研究者による上述の課題解決に向けた“医療AIプラットフォーム (以下、医療AIPF)”の研究・開発を担うタスクフォース (以下、T/F) が立ち上げられた。



図1 SIP第2期の12プロジェクト
[内閣府ホームページ (<https://www.8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/sip/>) ページ中央「課題一覧」より一部抜粋の上、編集]